

001 健

	作品名	出版社	著者	コメント	評価
1	蒼龍	文春文庫 580円 ㊦350円	山本一力	表題作含む5本の短篇時代小説 「のぼりうなぎ」「菜の花かんざし」「長い串」「節わか れ」「蒼龍」の5編。棄捐令(借金帳消し)が実施された 時代を背景に町人・職人・武士から見た江戸の市井・ 武家社会を現代感覚で書いているところが面白い。 棄捐令は現在の高利ローンの禁止、貸渋りに通じるも のがある。大店の信義を大事にする経営方針、二代 目との経営感覚の相違、引継ぐ者の見識。藩を維持 する者同士の悩み・友情、武士のプライド。物の本 質、考え方は江戸時代も現代も変わらない。「のぼり うなぎ」は成長前の小さいうなぎだが味が良い。悩みを 吹っ切った主人公に縁起をかついでご馳走しようとし るが由来を聞き食べられず大川に逃がしてやる場所 は時代劇のお約束か？ 「蒼龍」は貧しい大工職人が賞金目当てに茶碗の絵 柄に応募する話。	
2	知識ゼロからの 徒然草入門	幻冬舎 1365円	矢沢栄一・著 古谷三敏・絵	徒然草の序文、「仁和寺の法師」、「木登り名人」の話 は教科書に載っていたので知っている人も多いと思 う。実物は上下2巻の243話にのぼるのを知った。こ の本は徒然草の一部を体系的に抜き出し本文に加 え、噛み砕いた訳文、筆者の視点・解説を載せたも の。さらに私の好きな「BARレモンハート」からぴた りの一コマ、セリフ、エピソードを添え、コラボレー ション効果をあげている。内容は人生、交際、仕事、成 功、文化の章に分類し、鋭く人間観察した結果の処 世術を説いている。西洋の善悪の考え方では無く人 間の欲の本質を見抜いたうえでの人生論、処世術を 説き共感できる場所は多い。世捨て人ならではの達 観。とにかく本は読みやすくとてもわかり易い。	
3	みなとみらいで 捕まえて	光文社文庫 650円	鯨 統一郎	タイトルは明らかに「ライ麦畑でつかまえて」のパクリだ がこちらはドタバタ探偵小説。登場人物は半任優里 警部、そのパートナーの若き女性刑事南登野洋子、 「酪淡亭」に住む117歳の名探偵・論語研究家の明丹 廷(メイタンテイ)。他の登場人物名も語呂合せ。8話の連 作になっているがパターンは同じ。何故か横浜観光 中→事件発生(ダイイングメッセージ)→探偵の吐血→論 語の見立てによる事件解決で終わる。はっきり言って 事件の謎などはどうでもいい。語呂合せとドタバタのテ ンポにはまれば面白いのだろうが…。 地元横浜の観光名所が随所に出てくるので映像は浮 かぶが行った事も無い人にはどうか？	

4	現代漫画博物館 1945-2005	小学館 4410円		<p>漫画賞受賞作品を中心に戦後から現代までの各時代の代表作品を図版、内容紹介、初出、終了データ付で解説。</p> <p>別冊:漫画賞受賞作品一覧、年表、漫画作家人名事典</p> <p>頁数・解説作品数は物足りないものの丁寧な作り、各時代の代表作品はカバーしているので初めての事典としてはまあまあ。受賞作品一覧は調べ物をしたい時には重宝しそう。</p>
5	写真俳句の旅	(株)スパイス 1680円	森村誠一	<p>自分の場合、実際の光景を見ながら作ることは稀だ。過去の事を思い出したり、写真を眺めながらひねり出すことの方が多い。著者も予感が走った時に写真に残し、後で句にすることが多いそうだ。句の方は従来の作り方に拘らない方針のようで首を傾げるものもあるが写真とのコラボには成功している。暑中見舞いや年賀状にコメントを書くのが苦手なので写真俳句でごまかそうとデジカメを携帯しているがなかなか撮りたいものに出くわさない。</p>
6	旭山動物園の つくり方	文春文庫 680円	文 : 原子 禅 写真: 亀畑清隆	<p>旭山動物園についてはTVでもさんざん取上げているので書き残すほどの感想はない。言えることは動物園の危機存亡があつてこそ考え抜いた発送・工夫であり、動物にも観客にも真摯に取組まなければ観客の興味を引きつづける事はできないという事だ。</p>
7	夜は短し歩けよ 乙女	角川書店 1575円	森見登美彦	<p>学生が読むファンタジー小説の雰囲気。</p> <p>見知っている程度の仲だが同じサークルの後輩の女子に片想いしている学生。サークルの先輩の結婚式に出席したのをきっかけに告白しようと画策する。式が終わった後、実は大酒飲みの彼女は一人夜の街へ行き、あるバーに辿りつく。そして妄想だか現実だかわからないままに不思議な人達に会う。一方、男も後輩を追いかけてその人物達と複雑にからみながら障害にあい話しかける事ができない。春画を収集し人生論をぶつ東堂、大酒飲みの大型美人羽貫さん、空中浮遊を得意とする浴衣姿の樋口は自称「天狗」を名乗る、高利貸して酒仙の李白翁、観察眼鏡く舌鋒を吐く不思議な少年などがからみあい「真夏の夜の夢」というよりは春の夢のイメージ。フワフワ感のストーリー運びを彼女側からと男の側から2元中継の形で書かれている。</p> <p>雰囲気、セリフ回し、しゃれっ気を楽しむ本なのだろうが残る物は無いなあ。</p>

8	損料屋喜八郎 始末控	文春文庫 570円 ㊦300円		<p>損料屋は今で言えばレンタル屋のようなもの。上司の資金運用の失敗を肩代わりして武士を辞めた喜八郎。この時、損を穴埋めしてくれた札差「米屋(よねや)」の世話で損料屋となる。代わりに先代の死後、頼りない二代目を支えてくれるよう依頼されるが二代目はいきさつを知らず喜八郎を疎ましく思う。</p> <p>喜八郎にはもう一つ裏の顔があり元上司の与力秋山の手となり巨利を貪る札差たちの動向を見張っている。棄捐令(借金帳消し)の政策を巡り大掛かりな詐欺や乗っ取りを図る札差に対し、行商人などを手先に情報収集し頭脳戦で対抗する。</p>
9	深川駕籠	祥伝社 1,700円 ㊦鶴見図書館	山本一力	<p>深川黒江町に住まいする駕籠かき2人。一人は千葉の漁師生まれ。もう一人は元火消しという異色のコンビ。この2人、足には滅法自信を持っているがこれに劣らぬ足と気性を持っているのが同業の千住で駕籠をかつぐ寅。これに町飛脚の勘助、鳶の源治の足自慢が意地とプライドをかけ早駆け勝負をする。</p> <p>【菱あられ】「鳶の源次」との出会い。千住駕籠かきの寅との確執。</p> <p>【ありの足音】大家の木兵衛の頼みで筑波山の松茸運びを引受ける。献上品に使うため食べ頃の時間こ運ぶというきつい時間の縛りがあった。</p> <p>【今戸のお軽】駕籠に乗せた娘の破談が思わぬ面目を賭けた船と駕籠での先着勝負、相撲勝負の大きな賭けに発展する。</p> <p>【開かずの壺】大家の木兵衛が後見人になっている武家奉公人の走り(逃走)の顛末を始末する。</p> <p>【うらじろ】木兵衛の意外な裏の顔を煮売屋で聞く駕籠かきの新太郎。</p> <p>【紅白餅】富岡八幡宮から永代橋を渡り、芝で折り返し帰りは冬の大川を泳いで渡るトライアスロンが企画され着順当てのくじが販売され町内が活気付く</p> <p>【みやこ嵐】くじ販売の許可を巡り賄賂を取りそこなった同心が一位になった新太郎に濡れ衣を着せ仕返しを図る。</p>
10	開封 高橋克彦	講談社文庫 540円	道又 力	<p>以前、単行本で発行されたものに加筆して文庫化したもの。高橋克彦の履歴、作品、趣味、活動など幅広くまとめあげたもので熱狂的なファンであり支援者ならではのもの。</p>
11	あなたも俳句名人	日本経済 新聞社 1470円 ㊦鶴見図書館	鷹羽狩行 西宮 舞	<p>副題、季節感を生かす添削歳時記。 時候、天文、地理、生活、行事、動物、植物の各カテゴリ一別に詠まれた四季の俳句を添削。 今のところ、句会には参加する気が無いので勉強のつもりで読んでいる。</p>
12	伝染る「怖い話」	宝島社文庫 550円 ㊦100円	別冊宝島編集部 編	<p>都市伝説や語り継がれてきた「怖い話」の数々を取上げ真偽を追求しその正体を追ったノンフィクション。語られてきた背景や記事。聞き込みなどリアルで引き込まれる。</p>